

総合科学技術会議
科学技術イノベーション政策推進専門調査会
基礎研究及び人材育成部会

人材の育成強化に向けた工程表(たたき台)

平成24年6月5日

	目指すべき姿	達成手段(施策)等	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標	
2. 科学技術を担う人材の育成 (1)多様な場で活躍できる人材の育成 ①大学院教育の抜本的強化	◆目指すべき姿 国内外のあらゆる場で活躍できる人材、世界をリードする人材の育成のため、産学官の連携の下、世界に開かれた形で、専門分野を超えた体系的な大学院教育が行われる。	第2次大学院教育振興施策要綱に基づく施策の展開 リーディング大学院の形成 質保証を伴った海外大学との協働教育による交流の推進 評価を通じた教育の質保証・向上の促進	施策要綱に基づく体系的かつ集中的な施策展開 リーディング大学院の形成支援 アジア・米国等の大学との協働教育プログラムの構築を支援 大学情報の公表の徹底(大学ポートレート(仮称))	リーディング大学院の形成支援 アジア・米国等の大学との協働教育プログラムの構築を支援 大学情報の公表の徹底(大学ポートレート(仮称))	評価を通じた教育の質保証・向上の促進 評価制度の抜本改革(アウトカム評価、機能別分化に対応した評価、分野別評価) 客観的指標の開発(教育力、研究力、国際性、地域貢献等)	産学協働人材育成円卓会議などイノベーション・グローバル人材の育成についての産学の対話の促進 「円卓会議」のアクションプランなどに基づき、イノベーション・グローバル人材の育成に係る各企業・大学の取組を支援	<ul style="list-style-type: none"> 産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成する優れた教育プログラムの充実 国際的な枠組みでの質保証を伴った海外大学との単位互換・ダブルディグリープログラム等の充実 大学の機能別分化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> 理系博士課程修了者の完全雇用と社会での活用 世界の大学ランキングでの上位校の増加 理系博士課程に進学する優秀な学生の増加
②博士課程進学支援とキャリアパスの多様化	◆目指すべき姿 経済的支援に加え、博士課程修了者が、大学のみならず産業界、地域社会において、専門能力を活かせる多様な仕事に従事し活躍することにより、多くの優秀な学生が博士課程に進学するようになる。	産学協働人材育成円卓会議などイノベーション・グローバル人材の育成についての産学の対話の促進 ポストドクターのキャリア開発の組織的な支援 フェロウシップ・TA・RAなど経済支援の充実 優秀な学生を惹きつけ、学修研究に専念できる環境の整備 研究支援体制の核となる研究マネジメント人材の育成	「円卓会議」のアクションプランなどに基づき、イノベーション・グローバル人材の育成に係る各企業・大学の取組を支援 産学連携による人材育成の取組の充実 多様なキャリアパスの開発 経済支援の充実	「円卓会議」のアクションプランなどに基づき、イノベーション・グローバル人材の育成に係る各企業・大学の取組を支援 産学連携による人材育成の取組の充実 多様なキャリアパスの開発 経済支援の充実	博士課程修了者のキャリアパスの多様化 博士課程(後期)在籍者に対する経済支援の充実(在籍者の2割程度が生活費相当額を受給を目指す) 研究マネジメント人材の専門職としての確立と大学等における定着	<ul style="list-style-type: none"> 博士課程修了者のキャリアパスの多様化 博士課程(後期)在籍者に対する経済支援の充実(在籍者の2割程度が生活費相当額を受給を目指す) 研究マネジメント人材の専門職としての確立と大学等における定着 	<ul style="list-style-type: none"> 研究マネジメント人材の活躍による研究活動の活性化 	
③技術者の養成と能力開発	◆目指すべき姿 大学や高等専門学校で養成される技術者が、技術の高度化や統合化等に適切に対応し、今後の産業社会を担う上で必要とされる能力の基礎となる力を十分に身に付けている。	産学が協働した多様なアプローチによる、変化する産業社会のニーズに対応した技術者教育の改善	産学が協働した多様なアプローチによる、変化する産業社会のニーズに対応した技術者教育の改善	産学が協働した多様なアプローチによる、変化する産業社会のニーズに対応した技術者教育の改善	産学が協働した多様なアプローチによる、変化する産業社会のニーズに対応した技術者教育の改善	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容・方法、評価等の改善を通じた技術者教育の一層の充実 インターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> より質の高い実践的な技術者教育に取り組む大学・高専の増加 	

	目指すべき姿	達成手段(施策)等	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
(2) 独創的で優れた研究者養成							
① 公正で透明な評価制度							
② 研究者のキャリアパス	<p>◆目指すべき姿</p> <p>大学等において、優秀な若手研究者のポストが確保されるとともに、多様な研究環境で経験を積む機会が確保され、優秀な若手研究者が絶え間なく養成される体制が整備されている。</p>	<p>自立的な研究環境の整備・促進 (若手研究者向けフェロースhipや研究費等の支援の充実、テニュアトラック制の普及・定着)</p> <p>頭脳循環に加わるグローバル研究人材を育成するため、若手研究者の海外派遣を促進</p> <p>研究支援体制の核となる研究マネジメント人材の育成</p>				<p>・テニュアトラック制の教員の割合の拡大(全大学の自然科学系の若手新規採用教員数の3割相当を目指す)</p> <p>・日本人海外長期派遣研究者数の増加</p> <p>・研究マネジメント人材の専門職としての確立と大学等における定着</p>	<p>・大学等における若手研究者のポストの増加と自立的な研究環境の整備・促進</p> <p>・日本人海外長期派遣研究者数を2010年度の2倍</p> <p>・研究マネジメント人材の活躍による研究活動の活性化</p>
③ 女性研究者の活躍の促進	<p>◆目指すべき姿</p> <p>女性研究者の活躍の促進により、多様な視点や発想を取り入れられ、研究活動が活性化し、組織としての創造力が発揮される。</p>	<p>女性研究者の出産・育児等と研究の両立支援(研究サポート体制の整備、研究中断後の復帰を支援するフェロースhipの拡充)・裾野の拡大支援</p>				<p>・女性研究者の採用割合の増加</p> <p>自然科学系全体: 25%、理学系: 20%、工学系: 15%、農学系: 30%、医歯薬系: 30%</p>	<p>・女性研究者の採用割合を自然科学系全体で30%まで高めることを目指し、女性研究者の活躍を一層促進</p>
(3) 世界トップレベル頭脳循環システムの構築	<p>◆目指すべき姿</p> <p>国内外からグローバル人材が集まる魅力あふれる研究環境を創出する。</p>	<p>世界の頭脳が集まるトップレベル拠点の形成、発展</p> <p>世界最先端の研究基盤等の整備及び共用の促進</p> <p>国際的なネットワークを強化するとともに、国際的な活躍の舞台となる国際共同研究の機会を充実</p>				<p>・国際水準の基礎研究や人材育成を実施すると共に国際的な交流を促進</p> <p>・国際水準の研究環境及び基盤の形成を促進(研究重点型の大学群の形成等)等の取組を着実に推進</p>	<p>・日本人海外長期派遣研究者数を2010年度の2倍(再掲)</p> <p>・優れた外国人研究者受入れ数を2010年度の3倍</p> <p>・国際研究拠点に世界トップレベル研究者を200人受入</p> <p>・特定分野で世界トップ50に入る研究・教育拠点を100以上構築</p> <p>他の取組みも含めて関連施策を総合的に推進することで実現を目指す。</p>

	目指すべき姿	達成手段(施策)等	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
(4) 次代を担う人材の育成	<p>◆目指すべき姿 理数好きの児童生徒等の裾野が広がるとともに、優れた素質を持つ人材がその才能を伸ばすことができている。</p>	<p>学校における観察、実験の充実のための環境を整備</p> <p>先進的な理数教育を実施する高校等の支援の強化</p> <p>理数分野に関する研鑽・活躍の場の構築・推進や参加支援等、将来の科学技術を担う人材を育成するための基盤の整備</p> <p>理数分野に関して強い意欲のある学生を支援する取組みの推進</p>				<p>・PISAやTIMSS等の調査における理数に対する興味、関心を持つ児童生徒の割合など、各種指標の改善</p> <p>・国際科学技術コンテストや科学の甲子園、サイエンス・インカレ等に参加する生徒等の増加</p>	<p>・PISAやTIMSS等の調査において世界トップクラスの順位を確保</p> <p>・スーパーサイエンスハイスクール、科学の甲子園、国際科学技術コンテスト、サイエンス・インカレ等を一体的に推進することにより、科学技術人材の戦略的・体系的な育成・確保</p>

一体的に推進